

RHEON®

レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード 6272

第61期 株主通信

2022年4月1日～2023年3月31日



おいしいものを手軽に
提供できる技術を世界中に

市場はコロナ禍以前の状態に徐々に回復。 それを受けて、当期の業績は 増収増益を達成。

株主の皆様には、日頃より、当社グループの事業活動・企業活動に格別のご理解・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、創業の精神「存在理由のある企業たらん」を忘れることなく、食品成形技術のパイオニアとして、世界の食のニーズにお応えするとともに、食文化の継承と発展に貢献しております。

ここに第61期(2023年3月期)の営業の状況をご報告するとともに、今後の取り組みについてご説明いたします。

代表取締役社長

小林 幹央



Q 当期(2023年3月期)の経営環境および業績の概況をお聞かせください。

A 逆風の要因はいくつもあったものの、増収増益を達成できました。

当期は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和等もあり、社会経済活動の正常化への動きが進みましたが、一方で原材料・エネルギー価格の高騰や急激な為替変動が企業業績や消費者行動に

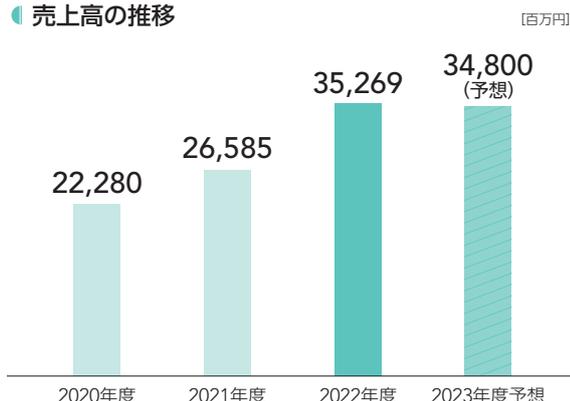
大きな影響を与えるとともに、ロシアによるウクライナ侵攻とその長期化は世界経済に暗雲を投げかけました。

このような状況の下、当社グループは、お客様のニーズに即した販売と製造、またニーズを先取りした開発などを推し進め、コスト削減、業務の効率化を徹底し、生産性の向上に邁進いたしました。

地域ごとの業績面に目を向けますと、国内では観光やインバウンド関連でコロナ禍からの回復傾向が見られたものの、本格的な回復には至っておらず、観光土産物業界は厳しい状況が続きましたが、スーパーマーケットの内製化やコンビニエンスストア向け製品のベンダー様の投資が堅調に推移し、業績が好転いたしました。また海外では、ゼロコロナ政策を推進した中国のほか、東南アジアでの販売が低迷した一方、北米は好調な経済を受けて堅調であり、ヨーロッパもロシアによるウクライナ侵攻の影響があるものの、ドイツを中心に底堅く推移いたしました。

これらの結果、当期における当社グループの連結業績は、対前期比で増収増益、ほぼ期中に発表した修正予想通りの着地となりました。

売上高の推移





Q 当期のトピックスや注力した取り組みをお聞かせください。

A 開発、販売をはじめ、全社的に業務改善への取り組みが浸透しています。

当社の課題として、販路拡大やコスト削減が挙げられます。当社の機械は、あくまでも食品製造ラインにおける“一部分”でしかありませんが、工場の製造設備全般、あるいはライン一式を一括受注するターンキー提案が、業績を押し上げ、同時に当社の技術力や営業力の向上にも寄与しているものと考えています。

開発面では、包あん機の用途を拡大し、これまでの和洋菓子だけではなく、ハンバーグやメンチカツなどの調理食品への応用が進んだことで、スーパーマーケット関連への販売に貢献しました。

また、業績への顕著な貢献に対する従業員表彰を実施しました。これまでは開発や営業部門中心の表彰でしたが、業務改革を進めるため、当期は製造部門の2名を表彰しました。部品の製造工程を簡略化し、年間数百時間の労務削減を実現するもので、コスト削減への貢献も表彰の対象としたことは、従業員のモチベーション向上につながると考えています。

当社は、DX(デジタルトランスフォーメーション)も、今後の成長に不可欠なものとして認識しています。3年前に基幹システムを刷新し、情報の一元化を進めてきました。現在も各分野におけるシステムの集約を進めている段階ですが、少しずつ成果が出てきています。今後も、販路拡大、納期短縮やコストダウンに努めてまいります。

Q 今後の展望や施策などをお聞かせください。

A 他社とのさらなる差別化のための開発、新規顧客開拓を積極的に進めていきます。

人手不足や原材料高騰による製造コスト削減のため、ここ数年控えていたお客様の設備投資が進むものと予想しています。中国についてもゼロコロナ政策がなくなったことで、販売活動が活発になっています。また、国内外の展示会への積極的な参加、

さらに新規顧客獲得戦略として、既存のお客様とは異なる市場を対象とした展示会への出展も計画しております。

新規の市場開拓という面では、今後の発展が見込まれるインド、南アジア、北アフリカ等の地域への進出に向けた足掛かりをつくってまいります。

開発面ではいくつかテーマを定めていますので、それらを確実に遂行していきます。それによって、他社との差別化を図ります。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

A 当期、創立60周年を迎えました。100周年に向けさらなる企業価値向上を目指して、世界の食に貢献してまいります。

当社グループは当期、創立60周年を迎えました。これまで一貫して、安全でおいしい食品づくりをモットーに、食品製造機械の開発に努めてまいりました。今後もお客様が求める食品づくりのサポート、世界の食文化の発展に貢献してまいります。そして、日々の活動を通じて、これからの10年、その先の10年、さらに100周年と、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

なお、当期末の配当金は、1株当たり19円とさせていただきます。これにより、1株当たりの年間配当金は、中間配当金12円と合わせて31円となります。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



レオン自動機60周年のあゆみ

おかげさまで60周年。

これからも、オンリーワンの企業として食の未来を築いてまいります。

2023年3月15日、おかげさまで当社は会社創立60周年を迎えました。創業者・林虎彦は、1961年に世界初の「自動包あん機」の開発に成功。その後も研究を重ね、1963年に自ら開発した技術で世界中の食品生産の近代化を目指すべく、栃木県宇都宮市にレオン自動機株式会社を創立しました。

創立以来、当社が買ってきた開発方針は、今まで世にない独自の技術で、安全でおいしい食品をつくる機械を開発することです。現在、当社の機械は127の国と地域で、その土地に根差した食品の生産に活躍しています。これからも、社是「存在理由のある企業たらん」を心に、社会に役立つ企業を目指し、当社独自の技術をもって、より良い食品機械の開発を行ってまいります。



レオン自動機60年のあゆみと売上高

— 単体売上 — 連結売上

(百万円)
45,000
40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0

1963年
レオン自動機株式会社設立



1966年
包あん機「RN105」販売開始



1974年
米国に現地法人「レオンUSA」設立
ドイツに現地法人「レオンヨーロッパ」設立



1975年
パフパストリー生産ライン
「MMライン」販売開始



1979年
米国に現地法人
「オレンジベーカリー」設立



1983年
製パンライン
「HMライン」販売開始

1986年
包あん機
「N208」販売開始



1987年
包あん機
「CN100」
販売開始



1987年 東証二部に上場
1989年 東証一部に上場



1988年
生産拠点「上河内工場」が
稼働開始

1994年
包あん機
「CN120」
販売開始



1999年
「VMシステム」を発表



1996年
「ストレスフリーV4-製パンライン」
販売開始



2000年
包あん機「CN500」販売開始



2011年
包あん機
「CN580」
販売開始



2023年 新中期経営計画発表

2022年
東証新市場区分
「プライム市場」へ移行

2020年
包あん機「CN700」販売開始



2020年
新社屋「レオン・ソリューションセンター」完成



新中期経営計画 (2023~2027年度)

テーマ 改革と企業基盤の強化

目まぐるしく変化する市場環境の中、「成長基盤」「利益基盤」「経営基盤」の3つの基盤強化に取り組み、『働きに喜びを感じる社会・会社』に向けて社会課題の解決と企業成長を図るための足場固めとする。

数値目標 2027年度(2028年3月期)

売上高 420 億円

営業利益率 13%

R O E 10%

基本戦略

1 成長基盤の強化

社会課題の解決や環境変化への対応を事業機会として捉える

食品加工機械製造販売事業

海外市場の拡大、国内の新たな市場への進出、
新機種開発(地域に沿った機種開発を含む)

食品製造販売事業

オレンジベーカリーの拡大、
ホシノ天然酵母パン種のアジア進出

2 利益基盤の強化

収益に左右されない利益基盤の構築

開発によるコスト削減

生産性向上

3 経営基盤の強化

健全な経営を確立していく

ガバナンス

環境改善

人材育成

DX推進

品質管理

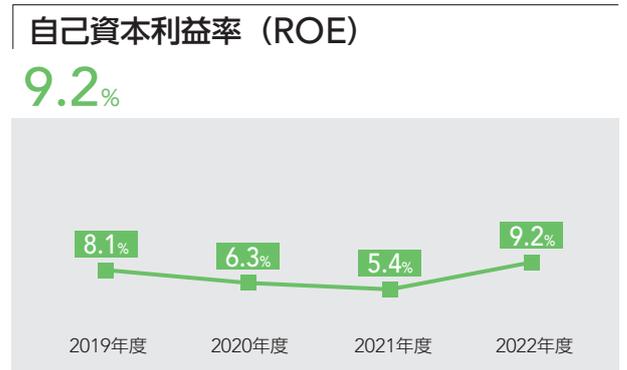
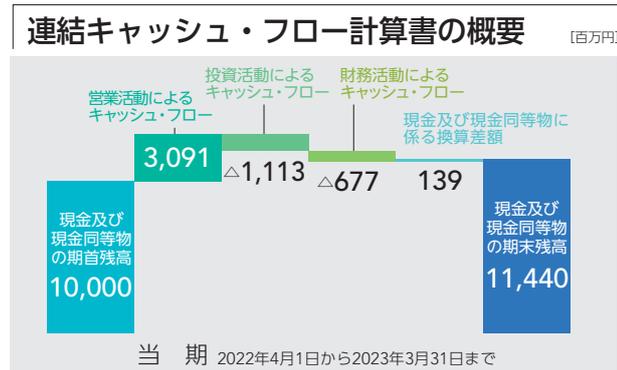
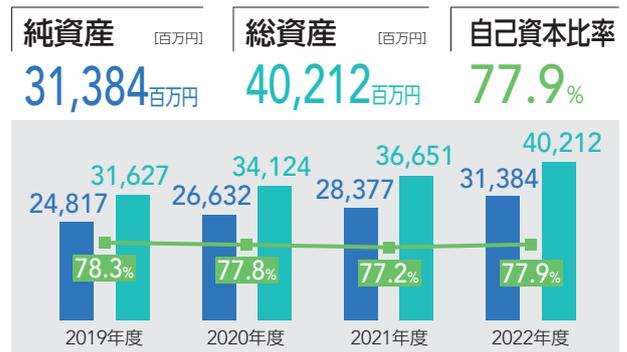
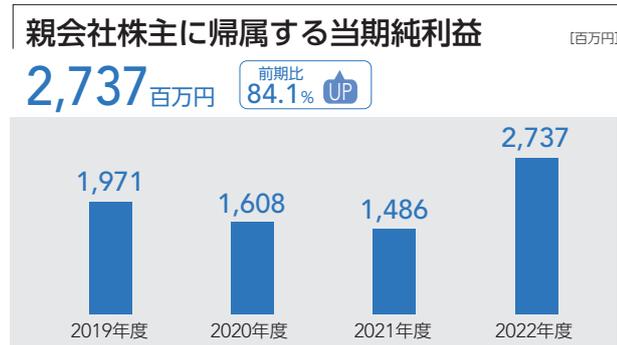
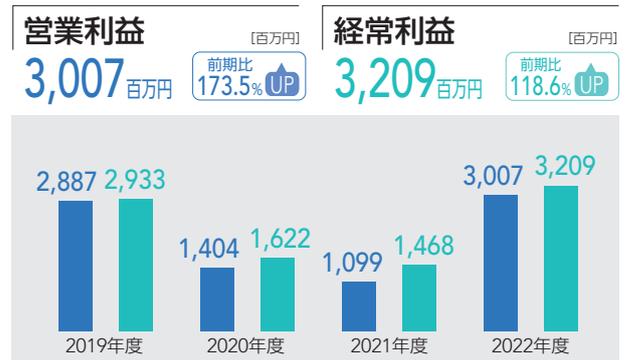
財務ハイライト



国内経済におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は続きましたが、行動制限が徐々に緩和されたことにより景気は持ち直しの動きが見られました。一方、原材料やエネルギー価格の高騰、市販部品の調達環境の悪化、荷造運賃の高騰には歯止めがかからず、経営を取り巻く環境は依然として不透明な状況が続きました。

海外経済におきましては、米国では政策金利の引き上げやインフレの進行がありましたが、総じて景気は底堅く推移しました。一方、欧州ではロシアによるウクライナ侵攻長期化の影響や急激なインフレの進行により景気後退が懸念されており、中国では「ゼロコロナ」政策による行動制限は緩和されましたが、その後の感染急拡大もあり経済は停滞が続き、部品等のサプライチェーンにも影響を及ぼしました。

このような状況の下で、当連結会計年度における売上高は35,269百万円(前期比32.7%増)、営業利益は3,007百万円(前期比173.5%増)、経常利益は3,209百万円(前期比118.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,737百万円(前期比84.1%増)となりました。



セグメント概況



セグメント別売上高および売上高の推移

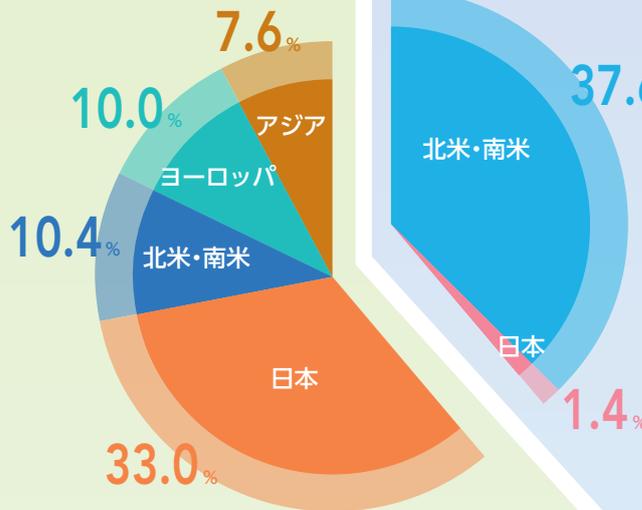
食品加工機械製造販売事業

21,523百万円

前期比121.4% 構成比61.0%

POINT!

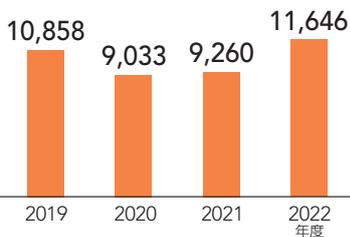
- 日本では食品成形機などの販売が増加
- アメリカでは修理その他の売上は減少したが、食品成形機などの販売は増加
- ヨーロッパでは修理その他の売上は増加したが、食品成形機などの販売は減少



日本

[百万円]

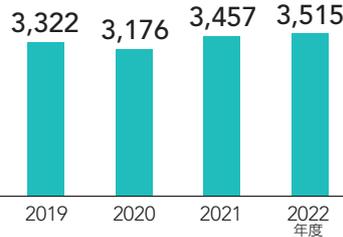
売上高 11,646百万円
セグメント利益 3,244百万円



ヨーロッパ

[百万円]

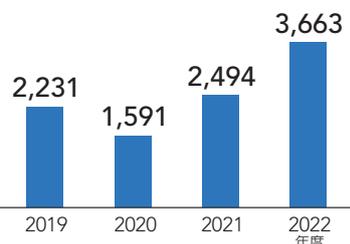
売上高 3,515百万円
セグメント利益 353百万円



北米・南米

[百万円]

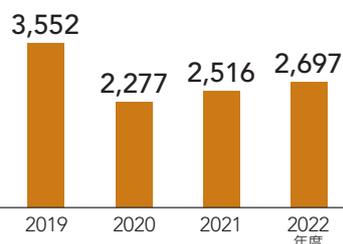
売上高 3,663百万円
セグメント利益 158百万円



アジア

[百万円]

売上高 2,697百万円
セグメント利益 698百万円



食品製造販売事業

13,746百万円

前期比155.2% 構成比39.0%

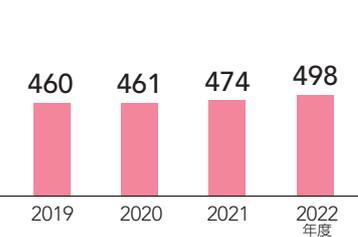
POINT!

- アメリカのオレンジベーカリーでは、販売価格の見直しや新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、経済活動が回復したことにより増収増益

日本

[百万円]

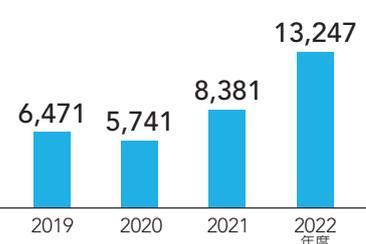
売上高 498百万円
セグメント利益 43百万円



北米・南米

[百万円]

売上高 13,247百万円
セグメント利益 612百万円



会社情報/株式情報 (2023年3月31日現在)

会社概要

商号 レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
本社 栃木県宇都宮市野沢町2番地3
設立 1963(昭和38)年3月15日
資本金 7,351,750,000円
従業員 570名

(注) 従業員には契約社員、嘱託社員、パートタイマー、準社員、国内外出向者、台湾支店の現地社員は含まれておりません。

役員 (2023年6月27日現在)

代表取締役社長	小林 幹 央
取締役常務執行役員	金子 保
取締役常務執行役員	大貫 和 茂
取締役常務執行役員	細谷 昌 樹
取締役	平原 興
取締役	赤塚 孝 江
常勤監査役	宮岡 正
監査役	平林 亮 子
監査役	横山 不二夫

(注) 1. 取締役平原興および取締役赤塚孝江は、社外取締役であります。
2. 監査役平林亮子および監査役横山不二夫は、社外監査役であります。
3. 取締役平原興、取締役赤塚孝江および監査役平林亮子、監査役横山不二夫は、東京証券取引所の定める独立役員であります。

事業所

上河内工場	宇都宮市中里町715番地1 (ISO9001認証取得)
東京営業所	江東区新砂1丁目6番35号 JMFビル東陽町02 1階
札幌出張所	札幌市白石区南郷通20丁目北1番37号
仙台出張所	仙台市泉区八乙女3丁目12番地の1
名古屋営業所	名古屋市名東区社台3丁目32番1号
大阪営業所	吹田市垂水町3丁目25番11号
岡山営業所	岡山市北区上中野2丁目12番18号
福岡営業所	福岡市博多区東那珂1丁目13番15号
台湾支店	台北市内湖區新湖一路118號5樓 台湾
上海駐在員事務所	中華人民共和國上海市長寧区虹橋路1438号 古北国際財富中心2期5階 503-30室

関連会社

■ レオンUSA (アメリカ) ■ レオンヨーロッパ (ドイツ)
■ 株式会社レオンアルミ (日本) ■ オレンジベーカーリー (アメリカ)
■ 有限会社ホシノ天然酵母パン種 (日本)

ホームページをリニューアルしました

当社の公式ホームページが、2022年12月より新しく生まれ変わりました。新ホームページは、企業ブランドイメージ向上につながるようビジュアルを一新するとともに、企業情報をより詳しく紹介するコンテンツを増やしました。当社をより深くご理解いただけるよう、IR情報やサステナビリティについても構成・内容の見直しを行いましたので、ぜひご覧ください。

レオン自動機株式会社 ホームページ

<https://www.rheon.com/>



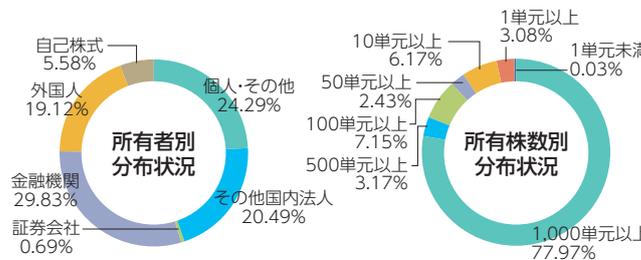
株式の状況

発行可能株式総数 42,800,000株
発行済株式総数 28,392,000株
株主数 5,622名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
公益財団法人レオロジー記念財団	3,030	11.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,926	10.9
ラム商事有限会社	1,703	6.4
レオン自動機取引先持株会	1,539	5.7
株式会社足利銀行	1,260	4.7
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,161	4.3
JP MORGAN CHASE BANK 380684	1,020	3.8
レオン自動機従業員持株会	768	2.9
株式会社栃木銀行	680	2.5
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	667	2.5

※ 自己株式1,584,469株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel. 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- ご注意
(1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
(2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
(3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 配当金計算書について
配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

〒320-0071 栃木県宇都宮市野沢町2番地3

TEL.028-665-1111

<https://www.rheon.com/>

